

## 平成 29 年度 学校評価について

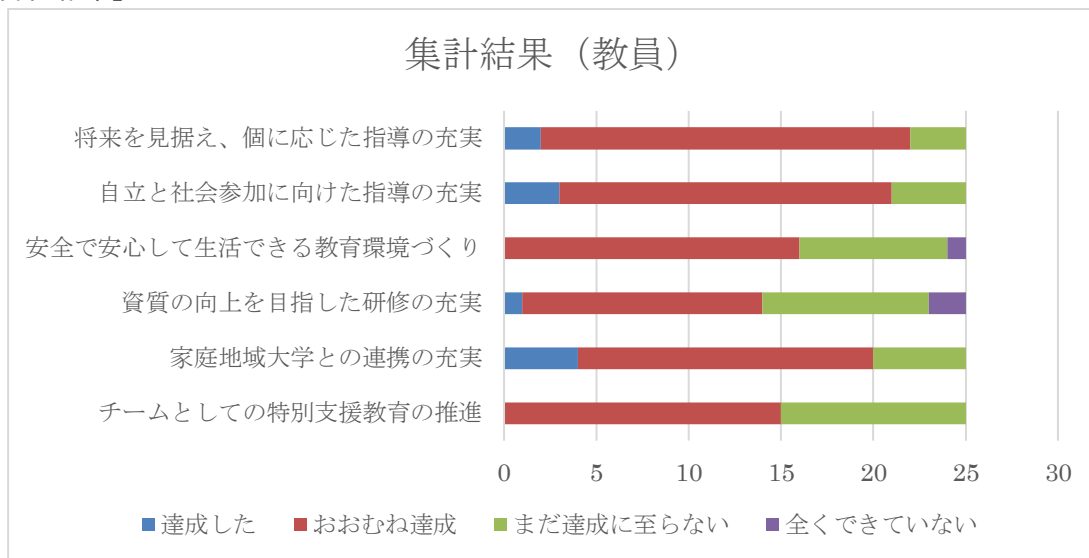
埼玉大学教育学部附属特別支援学校

①本校教員から、②保護者から(学校関係者アンケート)を基に学校評議員及び保護者代表(PTA代表) 学校評価関係者評価検討委員会で検討するという手順で進めた。

### <評価内容>

評価項目	評価内容
教育指導	①将来を見据え、子に応じた指導の充実 一人一人の児童生徒の実態や教育的ニーズを的確に把握し、「将来像」の実現に向けて教育活動を展開できたか
	②自立と社会参加に向けた指導の充実 体験的な学習を通し、自立と社会参加に向けた指導・支援を充実させられたか
教育環境の整備	③安全・安心な学校づくり 児童・生徒が安全に安心してもてる力を発揮できるよう、教育環境を整備・充実できたか
教員の専門性向上	④資質の向上を目指した研修の充実 研修会の積極的な実施や参加によって、特別支援教育に関わる教員の専門性が高まったか
家庭、地域大学との連携	⑤家庭・地域・大学との連携の充実 保護者や地域、大学、関係機関と連携した教育活動、研究活動の展開により、指導・支援の充実が図れたか
特別支援教育の推進	⑥チームとしての特別支援教育の推進 校内外の教員及び専門家、関係者と協働し、埼玉県及びさいたま市の特別支援教育の振興に努めたか

### 【評価結果】



①	評価としては、おおむね達成となっているが課題として、学部間のつながりや将来像に対する共通理解が挙げられた。今年度は将来像に関しての共通理解する機会を設けたが、今後さらにもう一步踏み込んだ共通理解が必要である。
②	おおむね達成といえる評価であるが、前項と同様、自立と社会参加に対する学部間のずれや学部間の取り組みやめざす姿の共通確認に言及している方もいて、全校での押さえと学部ごとの押さえについて確認が必要である。
③	校舎の老朽化については継続的に改修のお願いをしている状況にある。故障や不具合の早急な対応、危険箇所の報告など、事故の未然防止についてはこれからも進めて行く。 登下校については、年度ごとにきちんと確認して行く必要がある。児童生徒の事故など、組織としてどう未然に防ぐかについても毎年確認していく必要がある。
④	校内体制が整わず、研修に出にくい状況や研修が形式的になっているという意見も挙げられた。校内研修の中味の充実や研修に出やすい環境づくり、研修の成果を共有する工夫を更に進めて行く必要がある。

⑤	評価としてはおおむね達成といえる。新しい取り組みが増えた一方、これまで継続的に進めてきた諸活動の意義について確認が必要に思われる。
⑥	達成感の得にくい項目であったように思われる。「チームとして」の点で学部間の連携について、「特別支援教育の推進」の遂行という点で、意見も多く出された。「チームとしての特別支援教育の推進」というイメージの共有を大切にしていける必要がある。

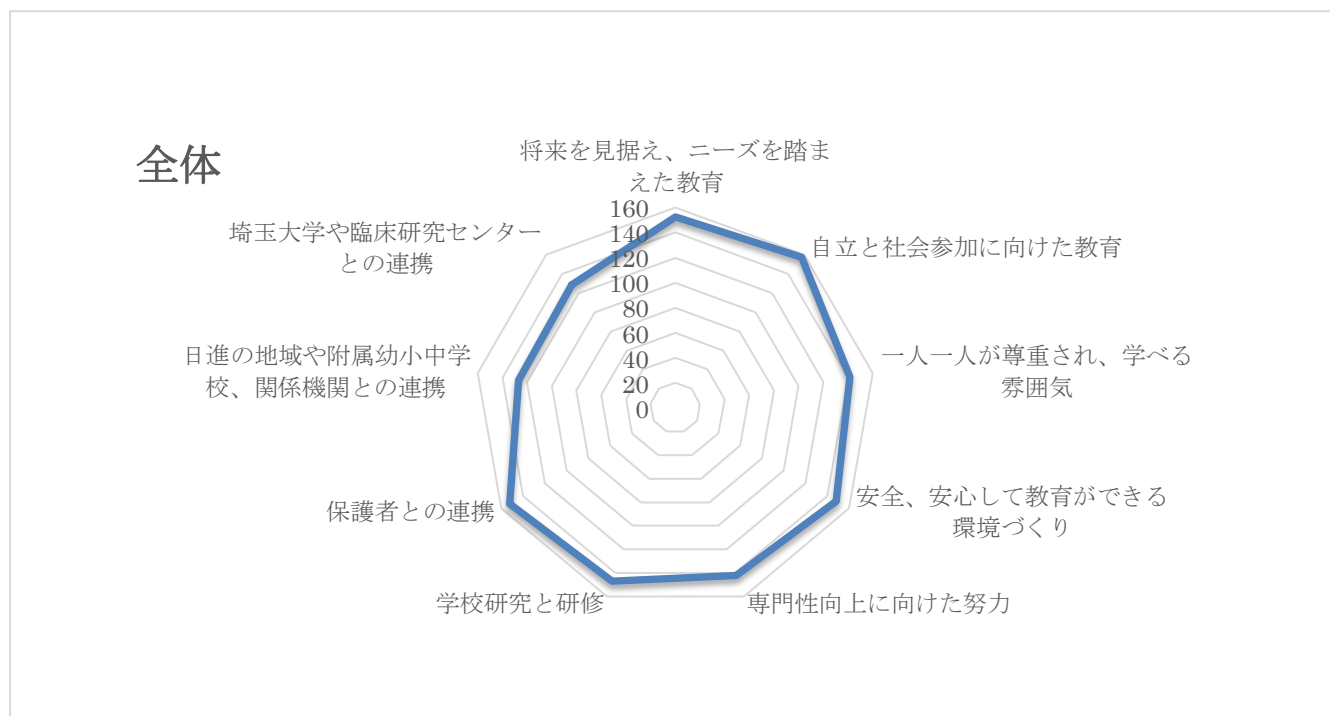
## 2 保護者から

今年度の本校重点・努力点をもとに設定した①～⑨の項目について、**A:よくあてはまる B:まああてはまる C:どちらともいえない D:あまりあてはまらない**、の五段階で回答する形をとった。なお、評価の達成状況を分かりやすくするため、A: +2点、B: +1点、C: 0点、D: -1点、E: -2点として集計し、グラフに表した。評価が高い項目ほど点数が高くなり、大きな図形となる。

### <評価内容>

評価	評価内容
教育指導	学校は将来を見据え、わが子の様子やニーズを踏まえて教育している
	学校はわが子の自立と社会参加に向けた教育を行なっている
学校環境	校内に子どもたち一人一人が尊重され、学べる雰囲気がある
	学校は安全、安心して教育ができる環境づくりに取り組んでいる
教員の専門性向上	本校の教員は専門性向上に向けて努力している
	学校研究に熱心に取り組み、教員は研修を積極的に進めている
連携	学校は保護者との連携を密に行っている
	日進の地域や附属幼小中学校、関係機関と連携して教育活動を行っている
	本校は埼玉大学や臨床研究センターと連携して教育を進めている

### 【評価結果】



「ニーズを踏まえた教育」、「安全・安心な環境」、「積極的な教員の研修」についてはおおむねよい評価を得たが、大学等との連携、地域との連携については低い評価となっている。積極的な情報発信を進めて行く必要がある。